

「育樹から木のある暮らし つないでく」
「第42回全国育樹祭」
技術普及課

11月17日、18日、東京都内において、皇太子ご夫妻御臨席のもと「育樹から 木のある暮らし つないでく」をテーマに「第42回全国育樹祭」が開催されました。

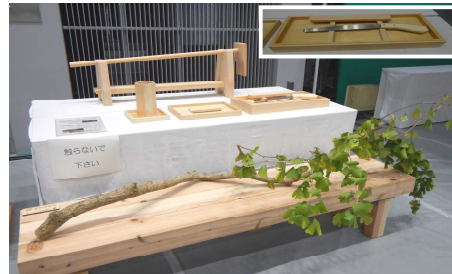
全国育樹祭は、昭和52年から毎年秋季に行われている国民的な森林・緑の祭典です。

全国各地から緑化関係者等の参加を得て、皇太子同妃両殿下によるお手入れ行事（平成8年全国植樹祭で天皇皇后両陛下がお手植えされ成長した樹木の枝打ち）や式典行事、参加者による育樹活動等を通じ、森林を育て次世代へ引き継ぐことの大切



皇太子殿下によるお手入れ

さを伝えました。17日の海の森公園予定地（中央防波堤内側埋立地）で行われたお手入れ行事には約2000人、18日の調布市で行われた式典行事には約5千人が招待されました。式典では、東京都緑化等功労者等には感謝状、全国緑の少年団活動発表会で受賞した緑の少年団には、東京都の各地域を象徴する苗木が吉川農林水産大臣からそれぞれ贈呈されました。メインテーマアトラクションでは、東京150年の木材文化と大会テーマを具体的なメッセージとして表現した木遣り唄や梯子乗り、演奏、ダンス等により式典を盛り上げました。関東森林管理局からは、齋藤局長



皇太子殿下がお手入れ行事で使用された道具と枝打ちされた枝



育林交流会



機械展示実演会

「育林交流会」「森林・林業・環境機械展示実演会」などに出席しました。がお手入れ行事や式典行事に参加したほか、東京神奈川森林管理署長や高尾森林ふれあい推進センター所長をはじめ、多くの職員が併催行事である「全国緑の少年団活動発表大会」「育林交流会」「森林・林業・環境機械展示実演会」などに出席しました。



吉川農林水産大臣から緑の少年団への苗木の贈呈

このうち、森林・林業・環境機械展示実演会では、牧元林野庁長官も来場され、高性能林業機械の実演や様々な展示物を熱心にご覧になっていました。また、みどりの女神の竹中さんは、林業機械を実際に操作し、その上手さに来場者の方々も驚いてました。



森林・林業・環境機械展示実演会で林業機械を操作するみどりの女神

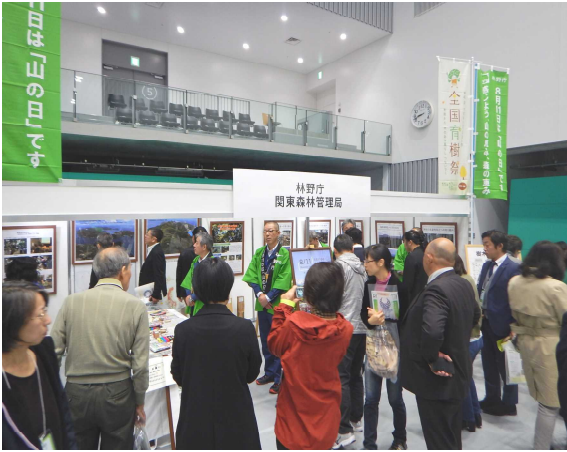


森林・林業・環境機械展示実演会で説明を受ける牧元林野庁長官(右)

「TOKYOおもてなし」コーナー

調布市の式典会場に併設された「TOKYO おもてなしコーナー」では、東京神奈川森林管理署、高尾森林ふれあい推進センター、東京事務所及び関東森林管理局が合同でブースを出展し、「山の日」のPRとともに、関東の国有林事業概要を紹介し、来場者に木工等の体験もしていただきました。

木の輪切りへの絵書き体験では、育樹祭の記念や家族へのプレゼントなどに好評で、子供達が集結し、色マジックの使用に順番待ちの方が出るほど賑わいました。



関東森林管理局ブース



木の輪切りへの絵描き体験

木の漢字クイズでは、大人から子供までパネルの前で立ち止まり、頭を傾けながら読めた漢字を指を折って数えている様子が印象的でした。多めに準備していた配布用の解答用紙も午前にはなくなるほどの人気でした。

花炭・草木染め展示では、あまりにも綺麗な家ででも作りたいと作り方を熱心に聞く方も多く、中には展示物を販売してほしいと言われる方もいました。

ひのきの香りを体験してほしいと職員が手作りした木の香り袋配布では、「いい香り」「何処で売ってるの?」「お風呂に入れても大丈夫?」など多数質問を受けました。用意した約250個が約20分でなくなる大人気でした。



吉川農林水産大臣(右)へ説明する齋藤局長(左)

コンテナ苗展示では、林業関係者でも初めて見る方が多く、触ってみたりして職員の説明を熱心に聞いていました。用意していたパンフレット類もすぐなくなる程の人気でした。午前中には、式典前に吉川農林水産大臣や牧元林野庁長官も立ち寄り、木の輪切りへの絵書き体験や展示パネル等をご覧になり、特にコンテナ苗の前では吉川大臣は熱心なご質問をされていました。



吉川農林水産大臣(中央)へコンテナ苗の説明



牧元林野庁長官、みどりの女神、吉川農林水産大臣

その他、2018ミス日本みどりの女神竹中智世さんや、次期開催県の玉城沖縄県知事など多数の方が立ち寄られ激励していただきました。

おもてなしコーナー出展30団体の中でも関東森林管理局のブースが一番賑やかだったようで、事務局から人が溜まるので整理するように注意をされるほど、大変多くの方々にお立ち寄りいただき盛大に終えることができました。

